十月五雲能

十月十六日（土）
午後一時始

演目の解説

13:00

放下僧

シテ 川瀬隆士　ツレ 今井基

ワキ 野口能弘　間 山本則孝

大鼓 大倉慶乃助　小鼓 森貴史　笛 栗林祐輔

後見 佐野登　亀井雄二

地謡 木谷哲也　辰巳大二郎　當山淳司　澤田宏司　小倉伸二郎　小林晋也　東川尚史

14:05

棒縛

山本則重

山本凜太郎　山本則秀

〈休憩十五分〉

14:50

六浦

シテ 高橋亘

ワキ 大日方寛　ワキツレ 吉田祐一　〃 小林克都　間 山本泰太郎

大鼓 佃良太郎　小鼓 鳥山直也　太鼓 大川典良　笛 小野寺竜一

後見 宝生和英　佐野玄宜

地謡 石黒空　上野能寛　金森隆晋　大友順　佐野由於　金井雄資　高橋憲正

〈休憩十五分〉

16:25

松虫

シテ 渡邊茂人　ツレ 金森良充　〃 金野泰大　〃 田崎甫

ワキ 村瀬提　間 若松隆

大鼓 柿原弘和　小鼓 森澤勇司　笛 藤田貴寛

後見 朝倉俊樹　水上優

地謡 鶴田航己　朝倉大輔　佐野弘宜　野月聡　金森秀祥　東川光夫　藪克徳

終演予定十七時四十五分頃

チケット料金
（税込）
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日学生証提示）

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

AFF ARTS for the future!

能「放下僧」（ほうかぞう）

牧野小次郎の父は利根信俊に殺され、小次郎は父の仇を討つことを決心して、禅門にいる兄を訪ねます。小次郎は時節を待てという兄に唐土の仇討ち話をして説得し、二人で放下僧に身を窶して敵討ちに出掛けることにしました。瀬戸の三島で信俊に遭遇した二人は、信俊の伴の者に取り入り、禅の問答を仕掛ける信俊に当意即妙の返答をしながら、虎視眈々と敵の隙を覗います。そして曲舞や鞨鼓など様々な芸を見せた挙句、信俊が油断した隙に首尾よく本懐を遂げます。

能「六浦」（むつら）

都の僧が東国行脚の途中、六浦の称名寺に立ち寄ります。折しも見事に紅葉する木々を見て、都にもこれ程の紅葉は無かろうと感心しますが、中に一本だけ紅葉してない木を見つけ不審に思います。そこへ女が現れ、その訳を語ります。昔、冷泉為相卿という方がこの寺に立ち寄ったとき、たった一本だけ紅葉していた木に和歌を手向け、その徳により以後紅葉する事がなくなったという。実は女はその楓の精で、夜になり月光の中に再び現れて、舞を舞います。

能「松虫」（まつむし）

阿倍野の市の酒屋に、数人の男が連れ立って酒を飲みに来ます。中の一人が語った話に、友と二人阿倍野の松原を歩いていた時、松虫の音に惹かれて野に分け入った友がそのまま空しくなってことが語られます。その友を偲ぶ男は更に盃を重ね、阿倍野の方へ帰って行く仲間に紛れ、帰ると見えてまた立ち戻り、市人と共に来た亡霊であるとほのめかして一人遅れて去って行きます。その夜、失った友を偲んで死んだ男の霊が現れ、色々な友情を語り、舞を舞って、松虫の鳴き声の中に消えて行きます。